



# 学校だより5月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和3年 4月30日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目 16番1

TEL 045(841)6561

## 心をつなぐ挨拶～本校の卒業生の姿に思う～

校長 岡崎 陽子

風薫る5月、学校の正門のそばのケヤキの木には、若葉が芽吹いています。このケヤキは、夏に涼しい木陰をつくってくれる本校のシンボルツリーです。

さて、朝の登校時に正門に立って、子どもたちに「おはようございます。」と声をかけると、様々な反応があります。元気に挨拶を返してくれる子。恥ずかしそうに小さな声で挨拶を返してくれる子。友達とのおしゃべりに夢中で、挨拶が返ってこない子どもたちの集団。黙って通り過ぎてしまう子。様々な子どもたちの反応を見るにつけ、新しいクラスにはもう慣れたかしらと思いを巡らしています。誰もが安心して学校生活を送ることができるようにしたいという願いを強くもちます。

先日、日限山中ブロックの会合が中学校でありました。そこで中学1年生の生徒たちに会いました。3月に卒業した本校の卒業生です。ちょうど体育の授業に向かう途中だったようですが、私に気付くと口々に「校長先生、こんにちは。」と明るく元気に挨拶をしてくれました。中には立ち止まって礼をしてくれる生徒もいました。久しぶりの再会を喜んでくれているように感じました。

小学校を卒業して1か月ですっかり中学生らしくなった子どもたちの姿に懐かしさと頼もしさを感じました。また、挨拶を交わすことがこんなにも嬉しいということを感じ、温かい気持ちになりました。

地域や保護者の方から、日限山の子どもたちは中学生になると、小学生の時よりも更に挨拶が上手になるという声をよくお聞きします。その通りだと実感しました。でも、これは急にできることではありません。小学生のときから、地域や保護者の皆様が、登下校時の子どもたちに声をかけ、挨拶の大切さを自らの姿でお示しいただいているおかげだと思います。

挨拶は、人と人との心をつなぐ第一歩だと思います。新しいクラスになって1か月がたちましたが、まだ学校生活に不安を感じている子がいるかもしれません。相手に聞こえるような声で挨拶することが恥ずかしいと感じている子もいるかもしれません。不安な気持ちを抱えていたり、自分に自信がもてなかったりすると挨拶をすることが難しい場合もあるでしょう。そのような時、私たち大人は、子どもたちのありのままの姿を受け止め、見守り、やさしく声を掛け続けることが大切であると思います。挨拶を強要するのではなく、挨拶をすると気持ちがすっきりする、挨拶を交わすと温かい気持ちになるということを子どもたちが実感して、自分から挨拶ができる子どもたちを育てていきたいと考えます。

日限山中学校からの帰り際、体育の授業を終えた生徒たちに再び声をかけられました。

「さようなら。」

「体力テストのシャトルランで1位でした！」

私も頑張らなきゃという思いを強くしました。

地域・保護者の皆様におかれましては、これまでと同様、子どもたちを温かく見守り、声をかけていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。